

2019年11月フィリピンボランティア活動報告 第2陣

フィリピンボランティア活動報告をします。

記録 NAPhair 安井重満

日程：2019年11月18日～21日 場所：ルソン島 スービックシティ



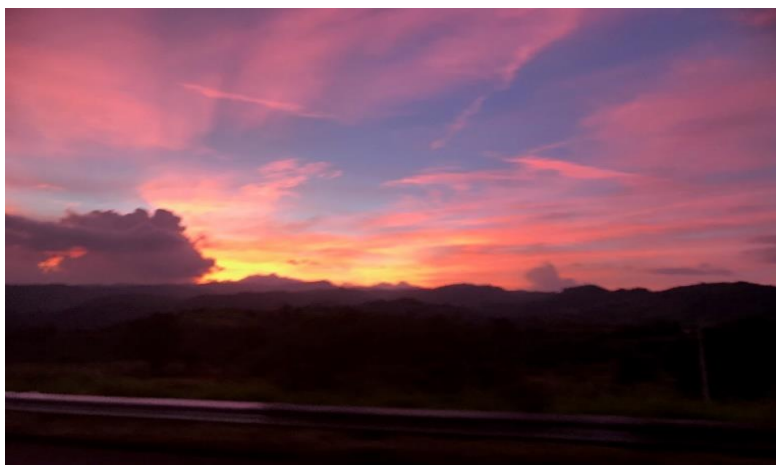
全国の皆さんから
お預かりして
募金を渡しました！

左上：現地の富田一也さんに募金を渡す。 右上：銃で撃たれたトントンの所にお見舞い。

左下：今回のメンバー

右下：事故で全身麻痺のアーティストミデルの所へ訪問

11月18日 日本→マニラ 移動 その後…マニラの大渋滞を抜けて19時にホテル到着。夕食後、みんなで現地で配るお菓子の袋詰め。夕日がきれいでした。



11月19日

朝、グループを二つに分けて、2日間かけてトントンとミデルの所へ訪問いたしました。

トントンは車いすへの生活にチャレンジすると言っていました。ただ、身体が痩せていっているので栄養が必要とのことです。初めて会ったときはまだ、怖い目をしていましたが今はキラキラのまるで天使のような目でした。皆さんにメッセージをいただいたキャップは袋に大切にしまっておりました。雑な縫合のため針金が皮膚から出ているのと、どうやら右肩を脱臼しているみたいです。

ミデルは「前のような落書きでなく、アートを勉強して仕事としたい。」と言っておりました。今は水彩絵の具で絵を描いております。以前は太いマジックしか持てなかったのが今は筆も持てるようになりました。格段に進歩しています。近い将来自分で起き上がることができるかもしれません。

その後、毎回訪問しているリトルボイス小学校へ行きました。午前中は低学年、中学年、高学年に分かれて授業をしました。低学年は紙飛行機づくり、中学年は髪飾りづくり、高学年はメイクとボディペイントをしました。どのクラスもかなり盛り上がりました。この学校はアエタ族と普通のフィリピン人が入り混じっていますが、唯一民族間の差別のない学校です。もちろんアエタの子たちは貧しくお金が払えません。そのことも子どもたちは知っていますが、先生たちの努力でそういう差別をしない教育をしています。いつも、僕たちも服装など気を付けて行くくらい厳しい学校なので、メイクはどうかーと思ったのですが、先生たちもカラスプレーをつけたりメイクをおねだりされたり、大好評でした。

午後はリトルボイス小学校でボランティアカットとアレンジヘアとマニキュア、そして急遽メイクブースを作り行いました。男の子はきれいに短くしないとイケないので、メンズカットが得意な人たちとアレンジが得意な人たちに分けて行いました。



夕方から江里子さんが合流し、まだ、スモーキーマウンテンやダニエラの街に行ったことない人たちはそちらに行き、行ったことある人たちはユウアン（足の手術）の村にと、分かれていきました。

ユウアンは走っておりまして。感動いたしました。足の向きは極端な内股になってはいますが、足の裏をキッチンと地面につけ走っていました。ユウアンを育てているおばあちゃんが「日本人（ウッディチキン）には本当に感謝しています。この子の将来を救っていただきました。ありがとうございます。」と言っておりました。その言葉に涙がでました。

そして、ユウアンの村で日が暮れるまでボランティアカットとアレンジメントを行いました。帰る頃は真っ暗でした。



江里子さんに支援物資とどけました。
スモーキーマウンテンとダニエラの街
カット後のイケメンユウアン



11月20日

この日も残りのグループがトントン、ミデル行きました。

その後、午前は2つのグループに分かれ、絆サロンでカラーの指導と今度から絆サロンで美容師を目指すリッシェルの村へボランティアカットに行きました。

リッシェルは既婚者のため、村に行って仕事っぷりを見せて家族に認められるのが目的でした。リッシェルがアレンジやネイルを日本人と一緒に堂々としていたのですごくよかったような気がします。

絆サロンのカラーはやはり問題がありました。明るくしたいのに選んだカラー剤がトーンダウンするカラー剤。しかも、モデルが「このままでは暗くなってしまうのでは？」と気づいているのに、本人は「大丈夫!」と思ってしまっているところ。日本のカラー剤とはちがって、2剤のオキシのパーセント12パーセントまであり、6パーセントは暗くするためのオキシとして使用するような気がします。1剤がそのように作られていると思われます。一度失敗を体験させ、お直しして仕上げるという方法で指導しました。今後はカルテを作ってリピートに対応するように指導してきました。



午後は、次回、大勢で行っても対応できる村の視察を兼ねてのボランティアカットに行きました。江里さんが関わっている村なので、始めから受け入れ態勢がすごく、明るい村でした。そこで、水頭症の子に出会いました。ジージャンという4歳の男の子で右側半分は麻痺していました。両親はアエタなのですがこの子が原因で別れてしまい、どちらも引き取らずどこかへいってしまったため、全く血のつながりのない村のおばあさんが育てています。いままで、病院で見てもらったこともありません。そこで、まず江里さんに見てもらうようにして、今後治りそうなのか？を判断したいと思います。ただ、今まで水頭症の子を3人見てきましたが、頭もそこまで大きくなっていなく、言葉も普通にしゃべるので何とかしてあげたいと参加したメンバーは全員言っていました。



今回二つにグループを分けて行ったのですが、より密に、関わる事ができたような気がします。大勢で行くと「お金をもらったのではないかな？」とかかわった家族が妬まれることが良くあるそうです。天気にも恵まれ、朝早くから、日が暮れるまで活動する結構ハードなスケジュールでしたが、参加したメンバーは全員「今回のボランティアも充実したサイコーの活動でした！」と言っています。このようなことができるのもウッディの皆さんのご支援ご協力のおかげで、今回の参加の方はみなさんの代表として行くことができたのだと思います。

ありがとうございます。感謝・合掌！